

第6回 女性学研究会

日時 2020年2月26日(水) 15:00-17:00

場所 文学館 L-8

『ジェンダー平等のための社会技術へー参加型アクション・リサーチの実践例からー』

【要旨】

社会技術とは、社会の抱える諸問題に対応した研究開発に際して、社会的文脈に配慮しつつ実装し普及させることに重点を置く技術思想である。これを実現する社会調査法として、参加型アクション・リサーチがある。これは社会的課題の解決に向けたコミュニティと専門家／研究者との協働による調査研究法であり、2000年代以降、公衆衛生や地域保健、貧困・コミュニティ開発などの分野で本格的に発展してきた。

本報告では、奈良県中山間地域での高齢化コミュニティ支援の実践例から、社会技術の思想と参加型アクション・リサーチの方法がジェンダー平等と女性のエンパワーメントにとって有効であることを論じたい。

講師

奈良女子大学大学院人文科学系
水垣源太郎 教授



専門分野: 地域社会学・組織社会学。中山間地域をフィールドとした文理融合型のアクション・リサーチや育児期女性の就業継続・再就業の経験的研究を行っている。「育児期女性のソーシャル・サポート・ネットワークの地域差」(2015)、『ソーシャルメディア時代の公共性』(共著・2018)、『The Blackwell Encyclopedia of Social and Political Movements』(2013)など。

『学校における＜ジェンダー平等教育＞の現在』

【要旨】

今日の日本では、ジェンダーをめぐり、さまざまな見方や主張が錯綜している。先進諸国の中でも圧倒的に男性優位の社会とみられるこの国で、これまで性差別といえば女性差別と見なされてきたが、近年「男の生きづらさ」も盛んに語られている。また平成27(2015)年には文部科学省が「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」を発出し、性的マイノリティへの関心も見出されている。この国のそれぞれの「生」が「性」をめぐって抱える「生きづらさ」をわずかでも軽減するために、学校ができることー決して簡単ではないこの課題と向き合うための見取り図を示し、現場の取り組みなどについて考察する。

講師

神戸女学院大学文学部
奥野佐矢子 准教授



専門は教育哲学、人間形成論。主要著作論文は『ダイバーシティ時代の教育の原理ー多様性と新たなつながりの地平へー』(共著、学文社、2018年)、『教育的関係の解釈学』(共著、東信堂、2018年)、「ジェンダーに配慮したカリキュラムの動向についてー教育現場における展開ー」(『女性学評論』第30号、2016年)など。神戸女学院大学女性学Inst.所員。